



TITLE:

獨逸ノ戰後海運策

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 獨逸ノ戰後海運策. 經濟論叢 1917, 5(5): 760-763

ISSUE DATE:

1917-11

URL:

<https://doi.org/10.14989/127282>

RIGHT:

獨逸ノ戰後海運策

小島昌太郎

余ハ本誌前號ニ戰後ノ大西洋定期航路問題ヲ述ブルニ當リ Economistノ報道ニ從ヒ、獨逸ノ戰後ニ對スル海運政策ニ言及スル所ガアツタ。然ルニ近着ノ同誌¹⁾ハ更ニ此獨逸ノ戰後ニ對スル海運政策ニ關シ、稍詳ニ記述スル所アリ、且ツ多少前ノ報道ヲ訂正シタル所アルヲ以テ余モ亦前文中獨逸ニ關スル若干部分ノ訂正旁々此ニ其大要ヲ掲載スル。

獨逸ノ戰後ニ對スル海運政策ノ一部トモ見ルベキ、其船舶復活策ニ關スル法案ハ、本年七月十一日帝國議會ニ提出セラレタ。此法案ニ付セラレタル政府ノ覺書ニハ、國庫ニ對シテ大ナル負擔ヲ課スル此法案ニ付キテ、二ツノ重要ナル事實ノ説明ガ載ツテ居ル。其一ハ今回ノ戰爭ニヨリテ蒙リタル獨逸商船ノ損害ニ關スルモノデア
ル。戰爭開始當時即チ一九一四年七月末日ニ於ケル獨逸商船噸數ハ合計約五百萬噸デアツタガ

今日ニ於テハ、其中約二百萬噸ハ聯合國側ニヨリテ或ハ擊沈セラレ或ハ沒取セラレ、又約一百萬噸ハ獨逸側ノ諸國若シクハ中立國ニ緊留シテオツテ其本國ニ在ルハ約二百萬噸計リデア²⁾ル。其二ハ航海杜絶ニヨリテ獨逸海運業者ノ蒙リタル損害ノ甚大ナルコトデア³⁾ル。聯合國側ノ海運業者モ勿論所有商船ノ擊沈ニヨリテ多大ノ損害ヲ蒙ツタガ、彼等ハ他方ニ於テ、從前夢想ダモセザリシ運賃利益ヲ獲テキル。然ルニ獨逸ノ海運業者ハ其手ニ殘存セル船舶ヲモ只徒ラニ港内ニ緊留セネバナラヌ上ニ、之ガ保存ノ爲メニ莫大ノ經費ヲ負擔セネバナラス。斯ル事情デア⁴⁾ルカラ、今日獨逸ノ海運業ハ全ク經濟上ノ危機ニ瀕シテオツテ、國家ノ補助ナクバ到底戰後ニ於テ活動スルノ餘力ガナイ。前記法案ノ覺書モ此コトヲ明ニ自認シテキル。

獨逸政府ハ、戰爭ニヨル民間ノ損害ヲ一般ニ補償スルノ主義ヲ採用スルヤ否ヤニ關シテハ、今日未ダ何等決定スル所ナク、戰爭終決ノ模樣ニヨリテ之ヲ決定セントシテキル。故ニ此商船

(1) Economist, No. 3857 (July 28, 1917)

(2) 其詳細ニ付テハ本誌前號ニ記載シテ置イタ。

復活策モ特定個人ノ損害ヲ填補センガ爲ノモノニ非ズシテ、國民全體ノ立場ヨリ其海運上ノ利益ヲ保全センガ爲ニ計畫セラレタモノデアル。

北米合衆國ガ戰爭ニ加入スル以前ニハ、獨逸政府ハ海運業者ニ船舶建造及ヒ購入ノ資金ヲ貸附ケテ、其商船ノ復活ヲナサシムル積リデアツタ。而シテ之ニ要スル金額ハ凡ソ千五百萬磅(三億馬克)ト計上セラレテオツタ。然ルニ北米合衆國ガ聯合國側ニ加入シテ以來形勢一變シテ、到底斯ル姑息ノ策デハ役ニ立たナクナツタノデ、今回ノ提案ヲナシタノデアル。

今回ノ提案ハ前回ノ計畫ノ如ク商船建造購入費ヲ貸附クルニアラズシテ、損失商船ニ對シテ一部ノ補償ヲナサントスルノデアル。而シテ其補償金額ハ建造又ハ購入費ヨリ少イガ、將來若シ戰爭損害ニ對スル一般補償ノ主義ガ採用セラレコトアラバ、海運業者ニ對スル補償金額モ損害ノ全額ニ迄引上ゲラルコトニナツテキル。

此提案ニヨレバ政府ハ喪失又ハ被害商船ヲ回復セントスル船主ニ對シ、其商船ガ一九一四年

七月三十一日ニ有セシ價額ニ相當スル金額ヲ下附シ、且ツ、此金額ニテハ造船費并ヒニ船價ノ騰貴スベキ戰後ニ於テ到底十分ニ船腹ヲ回復スルニ足ラザルヲ慮リ、更ニ、其上ニ次ノ割合ニテ補償金ヲ下附スルコトニ定メテキル。

一 平和克復後三年以内ニ海運業者ニ引渡サル船舶ニ對シテハ、前述ノ下附金ト其建造又ハ購入ニ要セシ金額トノ差額ノ六割乃至八割。

二 同四年乃至六年以内ニ引渡サル船舶ニ對シテハ同四割乃至六割。

三 同七年乃至九年以内ニ引渡サル船舶ニ對シテハ同二割乃至四割。

而シテ各期間ニ於ケル割合ノ多少ハ、回復船舶ノ新古、下附金受領者ノ經濟狀態、及ビ彼等ガ當該船舶ノ引受ヲ受クルノ遲速ニヨリテ定メラル。補償金ヲ下附サル船舶ハ貨物船又ハ貨物積載力ノ大ナル貨客混用船ニ限ラレ、ソノ中特殊ノ構造ヲ要シ從ツテ建造ニ長期ヲ要スルモノハ、多少引渡ノ時機ガ遲延スルモ比較的大ナ

ル割合ノ補償金ヲ受クルコトナツテキル。又船舶ノ大サニ付イテハ何等ノ制限ガナイガ、小型船舶ハ大型船舶ヨリモ比較的有利ナル補償ヲ受ケ得ルコトニナツテ居ル。蓋シ、小型船舶ハ大型船舶ヨリモ早ク就役スルコトカデキルカラデアラウ。

此補償金ノ下附ニハ數箇ノ條件ガ付イテキル。其中主ナルモノニツアル。第一ハ船主ガ補償船舶ニ關シテ保險會社又ハ外國政府ニ對シテ有スル權利ハ政府ニ歸屬スルコト。第二ハ喪失船舶ガ舊船主ニ復歸シタルトキハ之ヲ政府ニ引渡スカ、又ハ補償金及之ニ其就役ノ日以後五歩ノ利子ヲ付ケテ政府ニ支拂フコト、但シ其支拂期日ハ大藏省ノ決定ニヨル。第三補償船舶ハ大藏省ノ明示ノ許可ナクシテ就役ノ日コリ十年間外國人ニ讓渡貨貸及傭船スルヲ得ズ、之ニ違反シタルトキハ體刑及罰金刑ヲ課セラルルコト。但シ大藏省ガ讓渡ヲ許可シタルトキハ補償金ヲ返濟セネバナラス。

補償金ハ右ノ如ク船舶ノ建造及購入ニ付イテ下附セラルルノミナラズ、更ニ中立國ニ繫留セ

ル船舶ノ修繕ヲナスニ付イテモ下附セラル。之ハ戰後直チニ起ルベキ外國海運業者トノ競争上必要ナカラデアル。又戰時中船員ノ蒙リタル個人の損害モ船長ノ一百二十五磅ヨリば一ノ十二磅十志ニ至ル範圍内ニ於テ補償セラル。此船員ニ對スル補償ノ理由ハ、船員ナルモノハ海運上重要ナル要素ナルト共ニ、又之ガ保護ハ國家ノ福利ノ上ヨリ見テモ必要デアアルニ由ルト稱セラレテ居ル。ガ併シ實ハ船主ニノミ保護ヲ厚クシテ船員ヲ捨置クコトハ、彼等ノ不平ヲ招ク虞アルカラデアラウ。

此ノ船舶復活ニ關スル法案ハ帝國議會ニ提出セラレ、目下商工委員會ニ於テ審議中デアツテ、未タ法律トナツテキナイ。又此法案ニヨル政府ノ負擔金額ガ幾許ニ上ルカモ示サレテ居ナイ。民間ノ見込デハ凡ソ六千二百五十萬磅ト推定サレテキルガ、恐ラク實際ハ之以上ヲ要スルデアラウ。

十月十一日發行大阪毎日新聞倫敦特電ニ曰ク『獨逸政府ハ造船補助金トシテ三億馬克ノ支出ヲナスコトニ決定セリ』ト。

電文簡單ニシテ、所謂造船補助金トハ如何ナル性質ノモノナルカ、本文ノ船舶復活ニ關スル法案ト如何ナル關係アルカ、又三億馬克ハ全額ナルヤ、初年度ノ支出額ナルヤ等一切不明ナレドモ序ナレバ此ニ之ヲ掲ク。

獨逸政府ハ以上述べタル船舶復活策ノ外、戰後ニ對スル海運政策トシテ既ニ次ノ如キ法令ヲ發布シテキル。

(一) 一九一五年十月及ヒ一九一六年二月ノ聯邦議會令ハ獨逸船舶及獨逸ニ於テ建造セラレタル船舶ノ外國人ニ對スル讓渡ヲ禁止シテキル。

(二) 一九一六年七月ノ聯邦議會令ハ獨逸船舶ガ外國商港間ニ貨物ノ運送ヲナスヲ禁止シテキル

(三) 同年十二月ノ聯邦議會令ハ獨逸海運會社ノ株式ヲ外國人ニ讓渡スルヲ禁止シテキル。

(四) 本年七月五日ノ聯邦議會令ハ、五百噸以上ノ獨逸商船ニヨリテ貨物ノ運送ヲナス運送契約及傭船契約ハ、一切、平和締結ト同時ニ無効トナリ、若シ是等ノ契約ヲ繼續セント欲セバ豫メ大藏省ノ許可ヲ受ケネバナラヌコトヲ規定シテキル。

(六・一〇・一七)